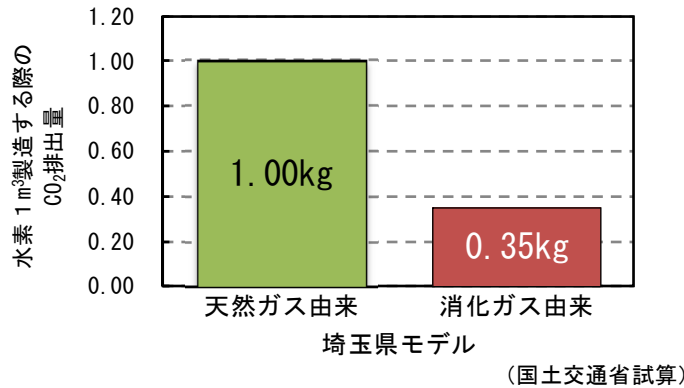


○実際の下水処理場をモデルとした実現可能性調査(FS)を踏まえ、本格的な事業化に向けて、今後、重点的に取り組むべき具体的施策についてとりまとめ

下水道資源からの水素製造・利活用の意義

○高い環境性



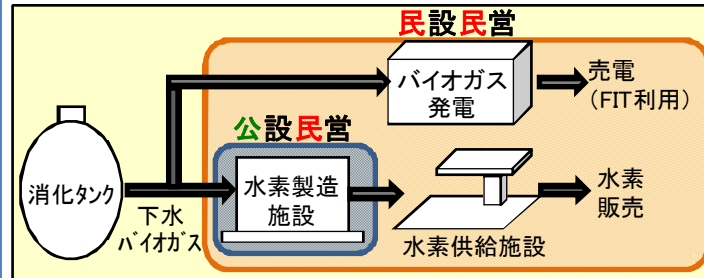
○エネルギーの地産地消による地域活性化への貢献等

下水道資源からの水素製造・利活用の実現可能性

【埼玉県中川水循環センターの試算例】 (国土交通省試算)

<想定プロセス>

- ・下水バイオガスの水蒸気改質による水素製造
- ・需要 (FCV普及) に応じた水素製造
- ・それ以外のバイオガスは発電して売電 (FIT制度利用)



目標年次	2020年供用
水素能力	約 120万 [m³/年]
水素利用用途	FCV燃料利用
FCV顧客台数の想定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2020年度 : 250台 ・ 2025年度 : 625台 ・ 2030年度 : 1,000台 (1台当り年間約20回利用)
事業収支 (民間事業者)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単年度収支 : 初年度 (2020年度) に約4,000万円の黒字 ・ 累積収支 : 約15年間で約10億円の黒字

下水道における水素製造・水素供給の普及展開に向けて

○主な目標

- ・ 2020年頃までに四大都市圏を中心に数カ所程度の下水処理場で水素製造
- ・ 2030年頃までに全国の20箇所程度の下水処理場で水素製造

○今後の施策展開

国土交通省では、地方公共団体や関係する民間事業者等とも連携し、以下の施策を継続的かつ着実に実施

- ・ リーディングプロジェクトの形成
- ・ 社会資本整備総合交付金等による事業化支援
- ・ 低コスト・高効率化のための技術開発支援 等